



平成30年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年9月12日

上場会社名 株式会社メガネスーパー 上場取引所 東
 コード番号 3318 URL http://www.meganesuper.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)星崎 尚彦
 問合せ先責任者 (役職名)取締役執行役員CFO (氏名)三井 規彰 (TEL) 0465-24-3611
 四半期報告書提出予定日 平成29年9月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年4月期第1四半期の連結業績(平成29年5月1日～平成29年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|-------------|-------|---|------|---|------|---|------------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 30年4月期第1四半期 | 5,220 | — | 240 | — | 218 | — | 98 | — |
| 29年4月期第1四半期 | — | — | — | — | — | — | — | — |

(注) 包括利益 30年4月期第1四半期 122百万円 (—%) 29年4月期第1四半期 —百万円 (—%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|-------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 30年4月期第1四半期 | 0.50 | 0.35 |
| 29年4月期第1四半期 | — | — |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|-------------|--------|-----|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 30年4月期第1四半期 | 13,749 | 595 | 3.1 |
| 29年4月期 | 13,396 | 420 | 2.1 |

(参考) 自己資本 30年4月期第1四半期 431百万円 29年4月期 285百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 29年4月期 | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |
| 30年4月期 | — | — | — | — | — |
| 30年4月期(予想) | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. A種優先株式、B種優先株式、C種優先株式、A種劣後株式及びB種劣後株式に係る配当の状況は、3ページに記載しております。

3. 平成30年4月期の連結業績予想(平成29年5月1日～平成30年4月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|-----------|--------|------|------|------|------|------|-----------------|-------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期(累計) | 10,204 | — | 300 | — | 250 | — | 50 | — | 0.14 |
| 通期 | 20,630 | 15.3 | 700 | 65.6 | 600 | 78.3 | 230 | 107.7 | 1.64 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(注) 特定子会社の異動に該当しませんが、株式会社Enhanlabo及び株式会社関西アイケアプラットフォームを期中より連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

| | | | |
|----------|--------------|----------|--------------|
| 30年4月期1Q | 158,931,034株 | 29年4月期 | 158,931,034株 |
| 30年4月期1Q | 103,575株 | 29年4月期 | 103,575株 |
| 30年4月期1Q | 158,827,459株 | 29年4月期1Q | 81,533,530株 |

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではなく、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 経営成績に関する説明」をご覧ください。

A種優先株式、B種優先株式、C種優先株式、A種劣後株式及びB種劣後株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なるA種優先株式、B種優先株式、C種優先株式、A種劣後株式及びB種劣後株式に係る1株当たり配当金の内訳及び配当金総額は以下のとおりであります。

A種優先株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なるA種優先株式に係る1株当たり配当金の内訳及び配当金総額は以下のとおりであります。

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|----------|-------------|----------|-------------|-------------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| 29年4月期 | 円 銭 — | 円 銭 0.00 | 円 銭 — | 円 銭 0.00 | 円 銭 0.00 |
| 30年4月期 | — | | | | |
| 30年4月期(予想) | | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |

B種優先株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なるB種優先株式に係る1株当たり配当金の内訳及び配当金総額は以下のとおりであります。

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|----------|-------------|----------|-------------|-------------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| 29年4月期 | 円 銭 — | 円 銭 0.00 | 円 銭 — | 円 銭 0.00 | 円 銭 0.00 |
| 30年4月期 | — | | | | |
| 30年4月期(予想) | | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |

C種優先株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なるC種優先株式に係る1株当たり配当金の内訳及び配当金総額は以下のとおりであります。

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|----------|-------------|----------|-------------|-------------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| 29年4月期 | 円 銭 — | 円 銭 0.00 | 円 銭 — | 円 銭 0.00 | 円 銭 0.00 |
| 30年4月期 | — | | | | |
| 30年4月期(予想) | | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |

A種劣後株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なるA種劣後株式に係る1株当たり配当金の内訳及び配当金総額は以下のとおりであります。

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|----------|-------------|----------|-------------|-------------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| 29年4月期 | 円 銭 — | 円 銭 0.00 | 円 銭 — | 円 銭 0.00 | 円 銭 0.00 |
| 30年4月期 | — | | | | |
| 30年4月期(予想) | | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |

B種劣後株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なるB種劣後株式に係る1株当たり配当金の内訳及び配当金総額は以下のとおりであります。

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|----------|-------------|----------|-------------|-------------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| 29年4月期 | 円 銭 — | 円 銭 0.00 | 円 銭 — | 円 銭 0.00 | 円 銭 0.00 |
| 30年4月期 | — | | | | |
| 30年4月期(予想) | | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| 経営に関する説明 | 2 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |
| 3. その他 | 9 |
| 継続企業の前提に関する重要事象等 | 9 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益や雇用情勢の改善等を背景に、国内経済は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、欧米の政策不安や中国経済の景気減速懸念等があり、依然として先行きは不透明が続いております。

当社グループが属しております眼鏡小売市場におきましては、依然として低価格均一店に伸びがみられるものの、高齢化の進展による老視マーケットの拡大、PCやスマートフォンなどのディスプレイやキーボード等により構成されるVDT (Visual Display Terminals) の高頻度使用による若年層における視力低下、疲れ目やスマホ老眼解消の需要高まりを背景として、老視レンズ、遠近両用レンズ等の累進型レンズへの需要が拡大しており、眼鏡一式市場規模は緩やかな回復傾向にあります。需要層については、低価格均一眼鏡と視環境の改善、いわゆる付加価値を求める需要層に二極化する傾向がみられる一方で、供給面においては、既存量販店、専門店、中小店を中心に価格競争の激化、労働需要の逼迫や経営者の高齢化による事業承継問題等により減少傾向がみられるなど、需要層の二極化と相まって業界再編の機運が高まっていくことが予想されます。

このような経済・事業環境のもと、当社は中期経営計画（平成30年4月期～平成33年4月期）に基づき、基本戦略（成長のシナリオ）に掲げる「目の健康プラットフォームを通じた同業のロールアップを戦略的に展開」、「技術革新を通じた新たな市場開拓を目指すウェアラブル端末事業領域の成長加速」による持続的に発展できる成長基盤の構築、並びに事業基盤の強化と経営効率の向上に取り組んでおります。

その結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、当社の眼鏡等小売事業及びEC事業ともに好調に推移したことに加えて、同業のロープアップの一環として平成29年1月31日付にて子会社化した株式会社メガネハウス（以下、「メガネハウス社」）の業績寄与等により、売上高は5,220百万円となりました。

一方、損益につきましては、ロールアップによる事業規模拡大効果として主としてメガネハウス社の原価率が改善、事業基盤の共有化による販売費及び一般管理費の最適化進展により、営業利益は240百万円、経常利益は218百万円となりました。なお、今期も引き続き収益力の増強を図ることを目的として既存店活性化（改装、近隣への移転や店舗面積の縮小等の店舗収益力の強化）を推進し、今期中の移転もしくは閉店の意思決定した店舗の損失見込額として、店舗閉鎖損失12百万円、減損損失17百万円等、34百万円の特別損失として計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は98百万円となりました。

また、技術革新を通じた新たな市場の開拓を目指し、「視覚拡張」をキーコンセプトに商品企画・開発を進めていた、メガネ型ウェアラブル端末「b.g.（ビージー）」について、ウェアラブル端末領域での事業化に目途がついたことから、同領域での成長を加速させるため、平成29年5月1日付にて株式会社Enhanlaboを設立しております。

当第1四半期連結累計期間における事業の種類別セグメント業績の状況は次のとおりであります。

1. 眼鏡等小売事業

当社グループの中核事業である眼鏡等小売事業は、日本人の眼の健康寿命を延ばす「アイケアカンパニー宣言」を掲げ、これまで、アイケア研究所の設立、PBフレームの開発、検査品質の向上、利便性の高いコンタクトレンズの販売を強化・発展させるとともに、地域の眼科医との提携強化、商圈・立地に最適化された店舗フォーマットや集客施策を展開しております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、グループ各社において「アイケア」の商品・サービスレベルの継続強化を進め、眼鏡の販売においては、お客様ごとに異なる視覚機能のポテンシャルを最大限に「引き出すこと」、「生かすこと」を重視する技術力や提案力等の販売強化施策が奏功したほか、出張訪問販売ニーズの深耕により堅調に推移いたしました。また、メガネハウス社において、5月より一部店舗、6月より全22店舗にて、当社ノウハウの供給による地域の眼科医との提携強化を進め、お客様の利便性を追求したコンタクトレンズの販売を開始するなど、コンタクトレンズの販売も好調に推移いたしました。

また、既存店活性化策（改装、近隣への移転や店舗面積の縮小等の店舗収益力の強化策）を継続的に講じることにより、当社グループの売上高前年同月比は平成28年2月以降18ヵ月連続で毎月100%超を維持しているほか、当第1四半期連結累計期間においては各月110%超と堅調に推移しております（5月 113.8%、6月 113.2%、7月 110.2%）。

この結果、眼鏡等小売事業における売上高は5,110百万円、セグメント利益は261百万円となりました。

2. EC事業

EC事業につきましては、当社ECサイト「メガネスーパー公式通販サイト」において、お客様の利便性を追求した質の高いサービスを継続的に強化しております。

当第1四半期連結累計期間においては、昨年度導入した「Amazonログイン&ペイメント」により、配送先・クレジットカード情報等の入力負担軽減に加えて、新たに「ソーシャルPLUS」のLINEログインオプション機能を利用し、LINEアカウントと連動するLINEログイン機能や、ECサイト会員登録と同時にLINE友だち追加ができる機能、会員向けのプッシュメッセージ配信機能を導入いたしました。これにより、当社ECサイトをご利用のお客様は、ご自身のLINEのアカウント情報を用いて手間なく簡単に会員登録やログインを行うことが可能となります。また、LINEログインを行うと同時に、当社ECサイトの会員IDとLINEアカウントとのID連携が完了し、同時に「メガネスーパー公式通販サイト」のLINEアカウントへの友だち追加をスムーズに完結することができます。将来的には、LINEログインでID連携したお客様に、お買い求めいただいた商品に応じた情報のご提供や商品購入の完了、配送のお知らせ等、LINEを通じた最適なコミュニケーションを図っていく予定です。

この結果、EC事業における売上高は112百万円、セグメント利益は12百万円となりました。

また、EC事業部門では、当社ECサイト「メガネスーパー公式通販サイト」をはじめとするECチャネルを通じた販売に加えて、平成29年1月23日にリリースした当社グループ全店で過去に購入したコンタクトレンズ用品を1タップで注文・配送することができるスマートフォンアプリ「コンタクトかんたん注文アプリ」など、実店舗とECサイトを包括するデジタルチャネル、店舗とデジタルのそれぞれのチャネル特徴を活かしたオムニチャネル戦略を実現するための基盤構築を推進しております。これら基盤による実店舗等への送客等による眼鏡等小売事業における売上貢献額とEC事業売上高を合算したEC関与売上高は119百万円となりました。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成29年4月30日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成29年7月31日) |
|-------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 3,438,978 | 3,603,625 |
| 売掛金 | 903,972 | 973,037 |
| 商品 | 2,602,105 | 2,659,281 |
| 貯蔵品 | 36,504 | 37,220 |
| 繰延税金資産 | 60,239 | 62,250 |
| その他 | 320,801 | 368,328 |
| 貸倒引当金 | △284 | — |
| 流動資産合計 | 7,362,317 | 7,703,743 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | 5,350,438 | 5,346,209 |
| 減価償却累計額 | △4,118,724 | △4,139,845 |
| 建物(純額) | 1,231,713 | 1,206,364 |
| 土地 | 1,054,469 | 1,054,469 |
| 建設仮勘定 | 5,984 | 16,831 |
| その他 | 2,897,452 | 2,938,449 |
| 減価償却累計額 | △2,503,865 | △2,524,126 |
| その他(純額) | 393,587 | 414,322 |
| 有形固定資産合計 | 2,685,754 | 2,691,987 |
| 無形固定資産 | | |
| その他 | 229,866 | 229,086 |
| 無形固定資産合計 | 229,866 | 229,086 |
| 投資その他の資産 | | |
| 敷金及び保証金 | 2,946,457 | 2,956,044 |
| その他 | 250,276 | 246,229 |
| 貸倒引当金 | △77,893 | △77,886 |
| 投資その他の資産合計 | 3,118,841 | 3,124,387 |
| 固定資産合計 | 6,034,462 | 6,045,461 |
| 資産合計 | 13,396,780 | 13,749,205 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成29年4月30日) | 当第1四半期連結会計期間 (平成29年7月31日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 1,569,795 | 1,645,261 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 7,561,458 | 7,468,170 |
| 未払法人税等 | 174,695 | 118,737 |
| 賞与引当金 | — | 60,000 |
| 役員退職慰労引当金 | 174,800 | 174,800 |
| その他 | 1,681,009 | 1,870,221 |
| 流動負債合計 | 11,161,759 | 11,337,189 |
| 固定負債 | | |
| 退職給付に係る負債 | 1,744,601 | 1,727,056 |
| その他 | 69,557 | 89,687 |
| 固定負債合計 | 1,814,158 | 1,816,744 |
| 負債合計 | 12,975,917 | 13,153,934 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 812,170 | 812,170 |
| 資本剰余金 | 947,178 | 947,178 |
| 利益剰余金 | △1,144,984 | △1,046,461 |
| 自己株式 | △66,847 | △66,847 |
| 株主資本合計 | 547,517 | 646,039 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 2,506 | 2,281 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △264,361 | △216,446 |
| その他の包括利益累計額合計 | △261,855 | △214,164 |
| 新株予約権 | 135,200 | 163,395 |
| 純資産合計 | 420,862 | 595,270 |
| 負債純資産合計 | 13,396,780 | 13,749,205 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 当第1四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日 至平成29年7月31日) |
|------------------|---|
| 売上高 | 5,220,452 |
| 売上原価 | 1,825,048 |
| 売上総利益 | 3,395,404 |
| 販売費及び一般管理費 | 3,154,862 |
| 営業利益 | 240,542 |
| 営業外収益 | |
| 受取利息 | 288 |
| 受取配当金 | 214 |
| 集中加工室管理収入 | 6,071 |
| その他 | 4,528 |
| 営業外収益合計 | 11,103 |
| 営業外費用 | |
| 支払利息 | 27,116 |
| その他 | 5,721 |
| 営業外費用合計 | 32,837 |
| 経常利益 | 218,807 |
| 特別損失 | |
| 固定資産除却損 | 1,997 |
| 店舗閉鎖損失 | 12,085 |
| 減損損失 | 17,794 |
| その他 | 2,684 |
| 特別損失合計 | 34,561 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 184,245 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 87,734 |
| 法人税等調整額 | △2,011 |
| 法人税等合計 | 85,723 |
| 四半期純利益 | 98,522 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 98,522 |

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 当第1四半期連結累計期間 (自平成29年5月1日 至平成29年7月31日) |
|-----------------|---|
| 四半期純利益 | 98,522 |
| その他の包括利益 | |
| その他有価証券評価差額金 | △224 |
| 退職給付に係る調整額 | 24,521 |
| その他の包括利益合計 | 24,297 |
| 四半期包括利益 | 122,819 |
| (内訳) | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 122,819 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | — |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、当社が事業再生途上にあった平成24年4月期において、既存借入について全取引金融機関より条件変更等による支援を受けておりますが、当該借入の返済期限が平成30年1月に到来することから（平成30年4月期第1四半期末における借入残高7,468百万円）、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存続しております。

当社は「事業再生期」と位置付けた平成24年4月期から平成28年4月期において、「アイケア重視のサービス型店舗モデル」への転換を進め、収益構造の多様化並びにコスト構造の改革を進めた結果、平成28年4月期（第40期）の営業利益は523百万円、経常利益421百万円、当期純利益260百万円を計上し、平成19年4月期（第31期）以来9期ぶりに黒字転換を果たしております。

また、「再成長期」と位置付けた平成29年4月期（第41期）においては、既存事業についてより一層の収益基盤の強化を図るとともに、成長戦略に「目の健康プラットフォーム」を通じた同業のロールアップを掲げ、株式会社メガネハウスの全株式を平成29年1月31日付にて取得するなど、収益力の増強と持続的な成長を見据えた戦略的な投資にも着手しております。その結果、連結決算に移行した平成29年4月期（第41期）の営業利益は422百万円、経常利益336百万円、親会社株主に帰属する当期純利益110百万円を計上し、2期連続の黒字化を達成するに至っております。

平成30年4月期（第42期）においては、中期経営計画（平成30年4月期～平成33年4月期）に基づき、同プラットフォームを通じた同業のロールアップを戦略的に展開し、事業規模の拡大並びに事業基盤の共有化を進めることで収益力の増強を図るとともに、眼鏡小売市場における付加価値需要層領域での競争優位の確立を目指していく計画です。

一方、財務面については、これまでの資本増強策に加えて、「アイケア重視のサービス型店舗モデル」への転換による収益力の増強策が相まって、平成30年4月期第1四半期末の現金及び預金は、平成24年4月期末の1,265百万円から3,603百万円となり、当社の財務体質は劇的に向上しております。

このような状況のなか、平成30年1月に返済期限が到来する借入について、メインバンクをはじめとする全取引金融機関との間では定期的な意見交換を図るとともに、メインバンクとの間では、リファイナンスを前提とする安定的かつ実行可能性のある返済方法、並びにその諸条件等について、本格的かつ具体的な協議を開始しております。

当社並びに当社グループとしては、引き続き持続的かつ安定的な収益力の増強を企図する成長戦略の推進による財務体質の強化を図り、事業成長資金に加えて返済原資等の確保を図ってまいります。

現在これらの対応策を推進しているため、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。